



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.16 2007. 1



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● イベント報告	
日本のインスティテューションと M&A	2
将来の社会にインパクトを与えるイノベーションの形態	2
SIMOT Workshop by An International Young Fellow	2
● コラム	
イノベーションの現場と SIMOT	3
● 学生の目	
インスティテューションを視点に据えた分析フレームワーク	3
● イベント予定	3
● 連絡先	4

東京工業大学では、21世紀 COE プログラム「インスティテューショナル技術経営学 (SIMOT)」遂行の中核センターとして、「インスティテューショナル技術経営学研究センター (SIMOT リサーチセンター)」を設置いたしました。
同センターの研究内容・活動を、広く内外に知っていただくことを目的に、毎月 SIMOT リサーチセンターニューズレターを刊行しております。

■ イベント報告 ■

日本のインスティテューションとM&A

(2006年12月20日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会12月例会では、GCA株式会社取締役パートナー 山本礼二郎氏に「日本のインスティテューションとM&A」とのテーマでご講演いただきました。

講演では、日本のM&Aにおける企業価値の評価・交渉のポイント、M&A後の企業経営などについて、ご自身の経験と豊富な事例を基に分かりやすく解説していただきました。近年のM&Aの動向・変遷と日本のインスティテューションの変化との関連はきわめて興味深く、活発な議論を誘発すると共に、SIMOTの研究に多くの示唆を与えてくださいました。



将来の社会にインパクトを与えるイノベーションの形態

(2007年1月18日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会1月例会では、SIMOT特任教授 ローランド・キルヒャー独シーメンス技術部長に「Future Innovations' Impact on Society」とのテーマでご講演いただきました。

講演では、グローバル化の進展に伴い複雑化する社会・経済の構造におけるイノベーションの形態や、グローバル化の各段階におけるその役割・影響を分かりやすく論じていただきました。また、将来のイノベーションの方向性として、“Associative Approach to Economics”を通じて、倫理・道徳的な観点を重視することが経済社会において必要であることを示されました。それは既存の2つの軸、つまり Technical Innovation と Institutional Innovation に続くべき第3の軸、Ethical Innovation を明示的に捉え、探求・定着化させることができ初めて社会の持続可能な発展が期待できるという先鋭的な提案であり、反論も含め、多くの質問、コメントが提示されました。



SIMOT Workshop by An International Young Fellow (2006年12月19日 東工大)



SIMOTでは、インスティテューショナル技術経営学に関する教育・研究の充実と、世界的認知度の更なる向上を目標に、世界の若手研究者に同分野の教育・研究を奨励しております。その一環として、海外若手研究者を招聘してのワークショップを開催しました。同ワークショップに参加したスイス連邦工科大学 (EPFL) 助手 Yuosre Badir 氏は、「Innovation and New Product Development Processes across Network of Strategic Partners」とのテーマで研究報告を行

いました。ハイテク製品の開発におけるネットワークの構築と戦略的パートナーシップの重要性について、製品開発マネジメント、組織理論、戦略的提携の3つの観点から論じると共に、イノベーションとインスティテューションの共進メカニズムの解明に向けた研究計画の紹介を行いました。ワークショップでの議論を基に、さらなる研究の発展・深化が期待されます。



論文掲載紹介

世界で最も権威のある仏地政学誌 "Revue Politique et Parlementaire"(Political and Parliamentary Review) の OIL: BETWEEN WAR AND COOPERATION の特集号において SIMOT リサーチセンターメンバー 増田達夫の SIMOT 特任教授としての論文 "Jeux de pouvoir dans les marches petroliers" (Power games in the oil market) が Point de vue (Point of View) として掲載されました。氏は、本論文において、近年の余り脈絡のない唐突な原油価格の高騰について論じています。地政学は、言うまでもなく Institution の重要要素です。

コラム

「イノベーションの現場とSIMOT」

エス・オー・シー株式会社 取締役

東京工業大学SIMOT 特任教授、SIMOTリサーチセンター-センター員 増田 達夫



私は、SIMOT 特任教授とともに、マイクロヒューズの開発・製造をする企業の経営に参画している。この製品は、電子・電気機器の回路保護を目的して使用されるため、機器の多様化と高度化により、内外のお客様から求められるヒューズの大半は特注品で、品種はゆうに数百種に達する。ニッチ分野であるが、技術水準と信頼性では、世界のトップを維持している。

わが国では、イノベーションを原動力に、このようなニッチ分野で世界をリードする企業、いわゆる「グローバルニッチ企業」が、驚くほど沢山あり、今でも、次々と誕生しつつあることは、想像に難くない。なぜ、これが可能なのか、社内で議論し、SIMOT の枠組みに沿い、自分なりの仮説を立ててみた。

第一の仮説は、古くは紫式部、近世では関孝和（微分積分）伊能忠敬（測量技術）更には、無数の匠（たくみ）により培われた、日本民族のハードとソフトを融合させる「資質」（SIMOT でいう歴史的俯瞰）、第二は、一億二千万人という民族の大きさの効用である。この大きさゆえに、極めて多様な技術・産業分野が生まれ、それらが絡み合い効果的な横展開を可能としている。特に、イノベーションにしのぎを削るメーカーは、横展開の中で、お客様に鍛えられ進化していく（SIMOT でいう市場と技術の相互作用）。

自分が身をおく企業の現場からしみ出したこれらの仮説を、SIMOT の議論・研究を通じて立証していくことは、タフで楽しいなチャレンジである。



学生の目

東京工業大学大学院社会理工学研究科

「インスティテューションを視点に据えた分析フレームワーク」

経営工学専攻博士課程1年 申 宰浩

SIMOT の授業では、SIMOT 事業推進担当先生による学術面および特任教授をはじめとするビジネス界の専門家による実地の経験の両面から、日本のみならず世界のインスティテューションの特性について勉強することができます。また、SIMOT 国際シンポジウムにおける講演等、SIMOT により提供される様々な機会を通じて、直接的・間接的に自身の研究を深化・発展させることができます。

私の主な研究のテーマは、近年発展著しい日本、韓国、および台湾のプラズマテレビの普及過程と学習効果とのダイナミックな相互作用の解明です。

私は、日韓台の3国のインスティテューションの特性に焦点を絞り、研究を進めました。その結果、プラズマテレビ産業の発展には、一般的な意味での技術開発と、製品の普及とイノベーションによる市場拡大が存在することが明示化され、また、日韓台の各国企業の特許分析の結果に基づいて、それぞれの国のインスティテューションの特性が分かってきました。例えば、日本と韓国の場合には、大企業を中心とした特許利用が多く、他方、台湾の場合には、個人とSMEsを中心として特許の利用が多く観察されます。

現在は、得られた知見を基に、イノベーションとインスティテューションの共通ダイナミズムの要因分析を通じて、各国固有のインスティテューションの効用・関係の解明について研究を進めています。



イベント予定

研究・技術計画学会 国際問題分科会 2月例会

日時 2月13日(火) 18:00~20:00

場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室

テーマ 「ビジネス・エコシステムにおける知識協創を通じたイノベーションの創生」

インスティテューショナル技術経営学への示唆

講師 フローリアン・コールバッハ氏 (一橋大学 客員研究員、ウィーン経済・経営大学 Ph.D.)

第3回年次国際シンポジウム

日時 2月27日(火)、28日(水)

場所 東京工業大学 大岡山西9号館 デジタル多目的ホール

テーマ イノベーションとインスティテューションとの共進化ダイナミズムの解明

プログラム

1日目	2日目
9:30 開会	9:30 開会
9:35 副学長挨拶 東京工業大学副学長 関口光晴	9:35 学長挨拶 東京工業大学学長 相澤 益男
9:45 基調講演1 村上憲郎(グーグル株式会社 代表取締役社長) Googleの理念	9:45 基調講演4 ノーマン・ノイライター(AAAS 科学技術安全保障センター 所長) 1980年代、90年代における日米半導体貿易摩擦からの教訓
11:00 研究報告 -1- (1)田中義敏(東工大 イノベーションマネジメント研究科 助教授) 企業の知的財産部門と他部門との連携に関する調査研究 (2)永田京子(東工大 経営工学 助教授) 日本企業の新規株式公開 - 国際比較分析の視点から -	11:00 基調講演5 ルーク・ジョルジュ(マンチェスター大学、PREST ディレクター) イノベーション政策 - 需要サイドの欠落
11:50 コーヒー	12:00 ランチ・ブランチ・セッション - SIMOT 教育の更なる進化 SIMOT 博士課程学生 SIMOT 特任教授: 菊池隆、保々雅世、増田達夫 パネラー: ペーター・メルテンス、ウルリヒ・ネーアー フロリアン・コールバッハ
13:00 基調講演2 鶴 光太郎(独立行政法人 経済産業研究所 上席研究員) 新たな創造と成長に向けた日本のシステム改革	13:30 基調講演6 (1)ロバート・バーゲルマン(スタンフォード大学 経営大学院教授) 自主的な課題解決を通じた種形成: 共進化メカニズムの情性の超克(米国)
14:00 研究報告 -2- (3)本本忠昭(東工大 経営工学 教授) 理化学研究所とイノベーション - 歴史からの一考察 - (4)菊池 隆(東工大 経営工学 SIMOT 特任教授) 日本エレクトロニクス企業の知識化・ブランド化	14:30 (2)フィリップ・ド・タクシー・デュ・ポエット(駐日欧州委員会代表部一等参事官) EUの研究・イノベーション政策(欧州) (3)渡辺千仞(東工大 経営工学 教授、SIMOT 拠点リーダー) 日本におけるイノベーションとインスティテューションの共進化ダイナミズム: 「東西」システムの融合(日本)
14:50 コーヒー	(4)渡辺 孝(東工大 経営工学 SIMOT 特任教授) 日米欧における大学発スタートアップの創出(日米欧)
15:05 基調講演3 稲葉善治(ファナック株式会社 代表取締役社長) FA & ロボット: 工場自動化への挑戦	16:00 コーヒー
16:05 研究報告 -3- (5)村木正昭(東工大 経営工学 教授) 循環型システムに向けて (6)梅室博行(東工大 経営工学 助教授) ユーザに愛される技術のために - ユーザビリティを越えて - (7)水野真治(東工大 経営工学 教授) 最適化問題と内点法 (8)矢島安敏(東工大 経営工学 助教授) カーネル法によるパターン認識	16:15 パネルディスカッション 中原恒雄ゼネラルコーディネーター ノーマン・ノイライター ロバート・バーゲルマン ルーク・ジョルジュ フィリップ・ド・タクシー・デュ・ポエット 渡辺千仞 渡辺 孝
17:45 閉会	17:45 閉会
17:55 レセプション(参加費: 2,000円)	

講演者紹介

村上 憲郎氏: Google Inc. 副社長、グーグル株式会社 代表取締役社長(元 Northern Telecom Japan CEO、DEC Japan 取締役)

鶴 光太郎氏: 独立行政法人 経済産業研究所 上席研究員(「組織と制度の経済学」に基づいた経済システムの先端研究者)

稲葉 善治氏: ファナック株式会社 代表取締役社長

ノーマン・ノイライター氏: AAAS 科学技術安全保障センター所長(コリン・パウエル元米国務長官への科学技術アドバイザー)

ルーク・ジョルジュ氏: マンチェスター大学教授、PREST ディレクター(EU 科学技術政策を担う)

ロバート・バーゲルマン氏: スタンフォード大学教授(戦略技術経営の泰斗、インテル研究の第一人者)

シンポジウムに関するお問合せは、下記発行元連絡先までお願いします。

● ● 発行 ● ●



東京工業大学 21世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」 SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内 西9号館 208B号室
TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250 Email: nakane.m.aa@m.titech.ac.jp
URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/index.html> 編集者: 菊池 隆